

2016年 7月号
通巻 171号

発行所
岩手県盛岡市中央通3丁目8-16
電話019-651-0810
FAX019-653-1057

岩手県同胞生活相談総合センター



洗浦地区中心に位置する「愛国牛」牧場(15.9.14撮影)

毎月25日発行 0円 同胞生活情報誌 ハナ songsu75@yahoo.co.jp

祖国の大地に「愛国牛」の群れ-岩手の同胞が贈った短角牛

洗浦地区畜産基地内に専門牧場

※『朝鮮新報』6月20日付5面に紹介された『愛国牛』と洗浦地区畜産基地に関する記事を紹介します。

朝鮮では近年、江原道の洗浦郡、平康郡、利川郡にまたがる広大な土地を開墾し、大規模な畜産拠点(洗浦地区畜産基地)を建設する事業が国家的に推し進められてきた。域内には「愛国牛牧場」という名の生産拠点もあり、牧畜がすでに行われている。

今後は800頭に

江原道・元山市中心部から車で約2時間、洗浦地区畜産基地の中の洗浦郡部分に位置する場所に、「愛国牛牧場」がある。牧草地面積は800ヘクタール、そのうち人口草地在約520ヘクタールで自然草地在約280ヘクタールだ。



「愛国牛」(애국소, 朝鮮語でエーグツソ)とは、かつて在日同胞が祖国を支援する目的で日本から贈った牛で、品種は日本の岩手県が原産の日本短角種にあたる。

同胞商工人たちを中心とした総聯岩手県本部傘下の同胞たちはこれまで、金日成主席生誕70周年(1982年)と80周年(1992年)の2度にわたって、合計182頭の牛を祖国に贈った。金日成主席はこれを、在日同胞の真心こもった牛ということで、「愛国牛」と名づけたという。岩手の同胞たちは当時、トラクターなどの農業機械をはじめ、さまざまな支援物資も一緒に贈った。

82年に贈った牛は江原道・元山市に船で到着した後、同文川市にある牧場に寄贈され、92年に贈った牛は洗浦郡にある牧場に寄贈された。それらは数十年間かけて朝鮮の風土に適応しながら繁殖を続け、朝鮮の畜産業の発展に大きく寄与してきた。洗浦地区畜産基地にある愛国牛牧場で育てられている牛は、その子孫たちである。

愛国牛牧場で現在飼育されている牛は370頭。今後2~3年以内に800頭に増やす計画だという。800頭に増えれば、朝鮮で屈指の牛牧場になるという。

朝鮮の気候・風土に適合

愛国牛は毛色が赤茶色の肉牛(食肉を得る目的で飼育される牛)で、暑さ寒さに強いなど、厳しい自然条件にも適応できる品種だ。雨・風・雪がふぶく洗浦郡の気候・風土にも適合している。春から秋まで放牧し、冬は畜舎で飼育される。

愛国牛は朝鮮の在来種と比べて、成長スピードが早いことが特徴だ。同じ量の飼料を与えた場合、愛国牛の方が太り方において優れているという。愛国牛牧場支配人のパク・チョルホさん(58)によると、在来種は3年で体重200~250kgほどになるのに対し、愛国牛は3年で体重が400kg以上にもなるという。

農業と同じく、畜産においても優れた品種を確保することはとても重要な問題だ。畜産業の発展に関心を払う金正恩委員長が2015年1月に発表した労作でも、「品種問題の解決は畜産業発展の先決条件」であるとの指摘があり、飼料消費量が少なく短期間で育成できる品種を確保することが強調されている。(裏面に続く)

(写真は今年5月、洗浦地区で放牧されている「愛国牛」を撮影したもの)



洗浦の牧草地で草をはむ「愛国牛」16.5月

いもじょも掲示板

■ウリ信岩手出張所地域総代・組合員の集い

日時:7月13日(水) 午後5時30分～

会場:ホテル東日本

■みちのくK・Kフェスタ 2016 in 蔵王

日時:7月30日(土)、31日(日) 受付11:30

場所:蔵王自然の家

〒021-101 宮城県刈田郡蔵王町遠刈田温泉上ノ原 155-1

参加費:子供1,000円、大人3,000円(小学生以下無料)

■夏季ウリマル教室 (県南支部主催)

日時:8月2日(火)～5日(金)11時～13時

会場:北上市民交流プラザ

参加費:無料

『ドクターカンの健康講座』は
紙面の都合で今回は休みます。

— 訃報 —

盛岡在住の金炳烈(総聯盛岡支部顧問)さんが6月21日、亡くなりました。(享年94歳)
葬儀は24日、中屋敷長安殿にて執り行われました。
謹んでご冥福を申し上げます。



牛舎と愛国牛(左)、遠目からの愛国牛牧場(右)(16.9.14撮影)

(表面からの続き)

愛国牛はこれまで交雑を行わず、ずっと純粋種として飼育されてきた。かつては肉牛として各単位に出荷されていた時期もあったというが、2012年からは優れた品種である愛国牛の頭数を増やすべく、出荷は現在行われていないという。洗浦地区畜産基地の建設事業は金正恩委員長の発起によって2012年に始まった。これまでの約3年間、江原道の3つの郡にまたがる土地に合計5万数千ヘクタールの広大な牧草地をつくり、牛、羊、ヤギ、豚、ウサギ、アヒルなどを育てて食肉を生産する畜産拠点が建設されてきた。朝鮮でこのように数万ヘクタールにも及ぶ牧草地を造成して大規模な畜産拠点を建設するのは今回が初めて。そのため、当初は想定できなかったさまざまな問題に直面することも多かったが、現在は完工に向けて順調に作業が進んでいるという。

「3年前までこの一帯はごつごつした岩がむき出しになった荒地だったが、それを全てすき返して人工的に草原が造成された」。洗浦郡出身のパク支配人は、自分が生まれ育った地が短期間で見違えるように変わったことが本当に感慨深いと話していた。

「洗浦郡一帯は自然条件が厳しく、来たことのある人間なら誰しもが『人の住める場所ではない』と言う。解放後、この地帯に対する開発は何度か行われてきたが、今回のように大規模に国家的な投資が行われ、かつての姿が見受けられないほど変わったことはなかった。金正恩委員長の構想通り、立派な畜産拠点が必ず完成されるという確信を持っている」(パク支配人)

新しく造成された牧草地で、愛国牛が群れをなして歩く姿を見ながらパク支配人は、「あの時、牛を寄贈してくれた同胞に、今こうして元気に育つ牛を是非見に来てもらいたい。これからもわれわれは牛を一生懸命育てて生産を拡大し、同胞たちの気持ちに添えていきたい」と話した。(朝鮮新報 金里映記者)

同胞の喜びの声

卞順漢 女性同盟県本部顧問 (1982年の愛国牛寄贈事業に実行委員として参加)

人民の食生活を豊かにするため生涯ご苦労された金日成主席の心労を少しでも減らすことになればとの思いで岩手の同胞が力を合わせ送った牛が30余年を経て大きく役立つ事となり本当にうれしい。

祖国の人々と一緒に「苦難の行軍」にも打ち勝った「愛国牛」が健気に思えてならない。

20数年前ムンチョン牧場でお会いした素朴で寡黙で頼もしい初代の支配人をはじめ同胞の思いを汲んで厳しい条件の中、牛を愛情をこめ管理飼育してくれた祖国の関係者に感謝する。

李求喆 本部副委員長 (愛国牛寄贈20周年記念事業に参加)

2002年に行われた支援事業のため文川と洗浦を訪れた時のことを思い出す。昨年9月に洗浦を訪ねた本部委員長から話を聞いたり、その時撮ってきた映像を見せもらいながら、一帯が素晴らしく変貌したことに驚きを隠せなかった。さらには「愛国牛」が新たに建設された洗浦地区畜産基地で、肉牛生産の基本種畜として位置づけられていることを知ってますますうれしかった。

岩手同胞の祖国への思いが金正恩時代に花を咲かせ実をつけてくれることを願ってやまない。



肉付きも良くつやと張り